

◇-----◇  
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 5. 7

下水道機構の『新技術情報』 第44号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇  
連休を利用して奈良へ行ってきました。下水道の仕事に関わるようになってから、旅先でのマンホール蓋の図柄チェックが楽しみになっています。斑鳩町にて「法隆寺」図柄のマンホールを発見したときは、大興奮でカメラをパシャリ！さすが古都ですね。観光地でマンホールを撮影する姿に相棒は驚いていましたが(笑)。皆さまはGWをいかがお過ごしでしたか？

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第44号をお届けします。

連休明けのボケ解消に(笑)？Tea Break にどうぞご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

・4月26日(木)に平成24年度第1回横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する検討委員会が開催されました

・5月10日(木)に「下水道管渠の液状化被害とその対策」をテーマに技術サロンを開催します！

・4月1日付、ニューフェースの職員さんから自己紹介をお届けします！【第4弾】

★機構の動き

・5月1日付で人事異動がありました

★Tea Break

・卒業にあたり（前研究第二部 田村さんからの投稿です）

・ご挨拶（前資源循環研究部 阿部さんからの投稿です）

★みなさまからのコラム

・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

★国からの情報

・4月26日付け下水道ホットインフォメーション

-----  
インフォメーション（最新の話です）  
-----

●4月26日(木)に平成24年度第1回横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する検討委員会が開催されました

下水道機構では、数値解析シミュレーションを用いた下水処理場等の津波対策について、横須賀市と共同研究を行っております(H23~24年度の2カ年)。

下水処理場等の津波対策において、今後想定すべき津波は、あらゆる可能性を想定した発生確率がきわめて小さいものであり、地方自治体の厳しい財政状況を踏まえると、効率的な対策が求められます。

そこで、効率的な津波対策計画の立案と実行のために、数値解析シミュレーションによる信頼度の高い被害予測や対策効果の確認を行っており、これらの手法の妥当性に関して、科学的、実務的な審議を行って頂くために検討委員会を設置しております。

当日は、横須賀市長のあいさつから始まり、委員長である防衛大学の藤間教授の議事進行のもと、「数値解析手法の妥当性評価」と「検討対象処理場の被害想定」について審議が行われました。

数値解析手法の妥当性については、東日本大震災で被災した処理場を対象とした数値解析結果と被害実績が概ね一致することが確認でき、今回採用した数値解析モデルは下水道施設の被害想定に適用可能と判断されました。また、同解析モデルによる検討対象処理場の数値解析結果と被害想定に関しても概ね了承されました。

今後は、津波対策を検討するとともに、数値解析シミュレーションによって対策効果を確認し、効率的な津波対策計画を検討する予定です。

●「下水道管渠の液状化被害とその対策」をテーマに技術サロンを開催します！

当機構では、毎月第二木曜日、地方公共団体、民間等の方々を対象に、最新の技術情報等のミニ講演を内容とする技術サロンを開催しています。

今回は、5月10日木曜日17:00からの1時間。当機構の会議室において、ゲストに国土交通省国土技術政策総合研究所下水道研究室長の横田敏宏様をお迎えして、「下水道管渠の液状化被害とその対策」をテーマに開催します。昨年度の地震で広範囲に被害が確認された液状化とその対策について、最新情報をお話しいただく予定です。今後の備えが重要である今、このテーマについて一緒に考えてみませんか。参加費は無料。出張帰り等でも歓迎です。皆様多数のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは、機構ホームページから→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-304.htm>

●前号に引き続き4月1日付、ニューフェースの職員さんから自己紹介をお届けします！

今回は、研究第二部副部長の伊藤雄二さんから自己紹介メッセージをいただいています。

=====

研究第二部副部長の伊藤です。前職は東京都下水道局第一基幹施設再構築事務所工事第一課で、都の下水道基幹施設の建設の仕事をしていました。耐震対策、浸水対策、合流

改善など都民の安全、快適なまちづくりの第一線の現場の仕事です。安全を最優先し、地元のお客様への環境負荷を少しでも減らすこと、また早く工事を完了させることに努めてきました。

下水道機構では、机上計算だけでは不十分なため実施する複雑な水理現象の調査研究、小規模な合流改善施設の共同研究、下水道施設の長寿命化に関する共同研究などいろいろな業務を担当しています。多岐にわたっている業務であり、毎日新しいことに取り組んでいる感じがします。

様々な分野からきた皆さんと仕事ができることも新鮮です。明るく、楽しく、元気よく、皆さんと仕事をしたいと思っています。よろしくお願ひします。

---

機構の動き (機構の行事予定です)

●5月1日付で人事異動がありました

今回は、2名の職員が機構を卒業し、新たに2名の職員を迎えました！  
異動の内容は下記のとおりです。

【転入者】( )内は、前職です。

研究第二部 主任研究員 井川 理 (管清工業 (株))

資源循環研究部 研究員 小川 裕正 (オリジナル設計 (株))

【転出者】( )内は、異動先です。

研究第二部 研究員 田村 司郎 (管清工業 (株))

資源循環研究部 研究員 阿部 真由美 (オリジナル設計 (株))

●5月10日(木) 17:00~18:00(場所: 機構 8階会議室)

第304回 技術サロン(テーマ:「下水道管渠の液状化被害とその対策」、ゲスト:

国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究室 室長 横田 敏宏氏)

参加お申し込みはコチラ→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-304.htm>

●第56回 下水道新技術セミナー(テーマ: 下水道における地震・津波対策)

【大阪会場】6月1日(金)13:00~16:45 (場所:大阪科学技術センター)

【東京会場】6月8日(金)13:00~16:45 (場所:発明会館)

※参加お申し込みはコチラ→ [http://www.jiwet.jp/school/school-02\\_056.htm](http://www.jiwet.jp/school/school-02_056.htm)

---

Tea Break (機構職員の感じるまま)

---

今回は、4月30日付、機構を卒業された職員の方からメッセージをいただいています

●卒業にあたり（前研究第二部 田村司郎さんからの投稿です）

つい先日、このメルマガ上で機構での日々について雑感を述べたばかりでしたが、気がつけばもう卒業です。そのメルマガでは、後悔しないように職責を全うしたいと、述べたにもかかわらず、立つ鳥跡を濁さずとは程遠い状況にできてしまっており、まさに後悔先に立たずという状況です。一緒に仕事をさせていただいている、自治体の関係者の方々、共同研究の各社の方々には、最後までご心配をおかけしてばかりで、申し訳なく思っています。さらに研究第二部の池田部長をはじめ、部員の皆様方にはすべてが中途半端の状況で卒業となってしまいました。

とはいえ、私個人ではこの2年間で経験させていただいたことは、いずれも下水道業界の最先端の技術であり、非常に刺激のある二年間であったことは間違いありません。また、技術のみならずいろいろな方々との出会いがこれ以上の刺激を与えてくれました。機構という所帯の中で、自治体の方々やコンサルタント、メーカーの方々と一緒に仕事できたことは、この上ない経験を得ることができました。

5月からは後任が着任します。また、私に関しては管清工業（株）本社 技術部に着任します。今後ともご指導とご鞭撻を承りたいと思います。2年間ありがとうございました。

●ご挨拶（資源循環研究部前阿部真由美さんからの投稿です）

2010年4月から、（財）下水道新技術推進機構資源循環研究部にお世話になりまして、あっという間に、2年と1ヶ月が経ち、出向元に戻ることとなりました。今日が機構の最終日となり、この原稿を書いています。寂しいという気持ちは実はあまりなく、本当にあっという間だったなあ、（自分としては）頑張った2年間だったなあ、楽しかったなあという思いです。

機構では、下水汚泥のエネルギー利用を中心に業務をさせていただきました。特に、エネルギー化技術ガイドライン検討調査業務では、委員会とWGを合わせて3つも開催し、準備やまとめが大変だった思い出があります。しかし、委員の方々から貴重なご意見やご指導をいただくことができ、大変勉強になりました。出向元に戻りましても、機構での経験、知識を生かして、頑張りたいと思います。

お世話になった皆様、どうもありがとうございました！

---

みなさまのコラム（皆様からお寄せいただいた情報です）

---

●掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。  
情報提供はこちらまで→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本と



●タイ下水道公社との技術支援事業合意書署名式を開催しました【埼玉県】

○「循環のみち下水道」成熟化に向けた戦略と行動」を公表【下水道企画課】

国土交通省下水道部では、「下水道ビジョン 2100（平成 17 年 9 月）」の基本方針である「循環のみち下水道」の実現に向けた取組を深化・成熟させ、エネルギー問題、低炭素・循環型社会の実現、経済再生、グローバル化など国家的重要課題にも貢献していくための国の戦略と行動について、「循環のみち下水道」成熟化検討会（委員長：滝沢智東京大学大学院教授）」を設置し検討して参りました。

この度、同検討会での議論を踏まえ、国土交通省下水道部が取るべき 7 つの戦略と行動を示した「循環の道下水道」成熟化に向けた戦略と行動」をとりまとめました。今後、同「戦略と行動」を念頭に各種施策に取り組んで行くとともに、社会情勢や取組の進捗に柔軟に対応すべく、同「戦略と行動」を適宜見直していく予定です。

[http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo\\_sewerage\\_tk\\_000204.html](http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000204.html)

●タイ下水道公社との技術支援事業合意書署名式を開催しました【埼玉県】

～JICA 事業を活用した下水道処理技術支援プロジェクト～

埼玉県下水道局は、タイ下水道公社（WMA）に対して国際協力機構（JICA）の「草の根技術協力事業」を活用し、「タイ王国地方都市における下水道処理技術支援事業」を実施することとなりました。JICAタイ事務所立会いのもと、4月19日（木）現地時間午前10時からWMA本社（タイ、バンコク）において署名式を開催し、合意書への署名を行いました。

署名式に先立ち、加藤下水道事業管理者がWMAのチェイエン委員長、パイロジ総裁とのトップ会談を行い、両者の友好協力関係を確認しました。

また、埼玉県下水道局、WMA及びJICAタイ事務所の3者で記者会見を開催し、多数の現地メディアに対して埼玉県及び埼玉県下水道局のPRを行いました。

[プロジェクト概要]

- 1 名称 : タイ王国地方都市における下水道処理技術支援事業
- 2 実施期間 : 2012年4月～2015年3月までの3年間
- 3 対象地域 : バンコク首都圏及びパタヤ特別市を除く東部地方都市
- 4 相手機関 : Wastewater Management Authority (WMA)
- 5 支援の概要

(1) 現地予備調査

タイ王国東部地方都市の下水処理場の課題及びその他関係する事項についての調査。

(2) 優先順位の設定

対策箇所及び問題個所について、経済性、効率性等から優先順位を設定。

(3) 技術者の派遣

下水処理場へ技術者 4 名を派遣し、効率的な下水処理技術と維持管理技術の支援及び技術的問題の指導を実施。

(4) 研修員の受入れ

WMA の職員 5 名を受入れ研修を日本で実施。研修は、日本下水道事業団と連携して実施。

=====

【参考情報】

◆下水事業に AM 手法 低コスト・長寿命化図る 仙台市 <4/20 河北新報>

<http://www.kahoku.co.jp/news/2012/04/20120420t11026.htm>

◆県下水道局:タイの処理技術を支援 /埼玉 <4/21 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/saitama/news/20120424ddlk11010213000c.html>

◆自治体から戸惑いの声 「住民説明が難しい」 群馬 <4/21 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/gunma/20120421/CK2012042102000134.html>

◆大分・下水道工事現場ガス爆発:3団地の下水管、可燃性ガス検出 引火可能性なし 市発表 /大分 <4/21 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/oita/news/20120421ddlk44040558000c.html>

◆福島第 1 原発事故:浪江町と南相馬市視察の復興相「インフラ整備を」 <4/22 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/select/news/20120422mog00m040007000c.html>

◆積水化学工業、下水管から熱を回収・活用する技術実証を大阪の下水処理場で実施 <4/23 EIC ネット>

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=27127&oversea=0>

◆下水道の意向調査で工事計画 <4/23 中国新聞>

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201204230037.html>

◆汚水処理能力を強化、浄水管理センター新施設を供用へ/秦野 <4/24 神奈川新聞>

<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1204240018/>

◆環境技術の海外売り込み支援 <4/25 中国新聞>

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201204250057.html>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/seikai2.pdf>

